

## Topics 理数科 1 年生 乗鞍岳野外観察

7月25日、理数科1年生は乗鞍岳で野外観察を行いました。乗鞍岳は長野県との県境にある標高3,026mの火山で、乗鞍岳の山頂近く畳平(2,700m)までバスで登ることができます。そのため、バスの車窓から「標高と植生の変化」を観察することができる貴重な場所です。生物の授業の生態系分野で学ぶ内容を実際に観察しました。

今年は梅雨明けが遅く天気が心配されましたが、雲間に日差しが差し込み、気温が15℃程とやや寒い天気でした。昨年の7月は非常に暑い日々が続いたため、高山植物の花の時期も早かったですが、今年はちょうど花の盛りにあたり絶好の観察日和でした。



畳平の「お花畑」で自然観察指導員の方に高山植物について説明を受けました

ハクサンイチゲ(白色)、ミヤマキンポウゲ(黄色)ミヤマキンバイ(黄色)などの植物が一面を覆うように咲いていました。



昨年は咲き終わっていて観察できなかったクロユリが花盛りでした。わずかな気候の変化が、高山植物に大きな影響を及ぼしています。



コバイケイソウは、よく咲く年と咲かない年があります。今年は非常に多くの株が咲いていました。

豊平の北側にある小さな山頂「魔王岳」への斜面に見られるコマクサ。高山植物の女王とも呼ばれます。

「お花畑」と違い砂利が覆う斜面に分布します。乗鞍スカイラインに一般車乗り入れができなくなり、お客さんの数が少なくなってから、増えてきているように感じます。



魔王岳山頂にて



昼食後はグループで決めたテーマに沿って観察を行いました。



「お花畑」ではライチョウの親子がいました。

母親（左上）、ヒナ（右下）

ライチョウを観察、夏のライチョウの親子は保護色となっていて、探すのが大変です。

